

講孟劄記

二

山本大庫
松野
217



講孟制記卷之二上

第九場七月廿二日

公孫丑上 首章

功烈如彼其早也

管仲ノ桓公ヲ助ル。王道ヲ知ラスレテ覇術ヲ行フト云ヘ
リ。王霸ノ辨。孟子以下古今名賢ノ論備レリ。然レ臣子モ亦
一説アリ。王道ハ大學ニ云如ク。格物致知誠意正心修身齊
家ヨリ治國平天下ニ至ルノ次序ノ失ハヌトナリ。覇術ハ
是ニ反ス。桓公ノ君タル内嬖夫人ノ如キ者數人。又外嬖暨
刁易牙開方三子ノ如キ者アリ。是ヲ以テ一旦桓公ノ歿ス

ル五公子迄ツト争ヒ。公骸骨葬ルヲ得ス。尸腐爛シテ
蟲ヲ生ス。數年ノ間齊國禍亂相繼キ。寧戚ナキニ至ル。管
仲ノ臣タル樹レテ門ヲ塞キ。三歸及姑密僭シテ邦君ノ為
ス所ヲ為ス。是ヲ以テ言フニ。齊ノ君臣九合一匡ノ功アリ
ト云レ。修身齊家ノ道ニ於テ一モ得ル所ナシ。故ニ桓公管
仲一タヒ目ヲ瞑スレハ。國事潰敗シテ復タ收ムヘカラス
是曾西カ管仲ノ功烈ヲ卑トスル所以也。是ヲ以テ王者ノ
政ヲナスハ。身ヲ修メ家ヲ齊ルヲ以テ先務トス。身ヲ修メ
家ヲ齊ルヲ先務トスルハ。事迂濶ナル如クナレバ。其法子
孫ニ傳リ。幾世ヲ經テモ動搖セサルノミナラス。益々興隆

スル者ナリ。創業垂統為可繼ト云モ。此事ナリ。豈公ノ如キ
非常ノ大豪傑ニテ。一世ヲ鼓舞スレバ。其後嗣彼カ如シ。恐
多キトナレバ本藩ノ如キハ。洞春公以來大義ヲ重シシ懿
親ヲ敦フレ。以テ今ニ至ル。長防編小ト雖。萬世ノ基業動搖
スルコトナシ。是ヲ以テ彼ニ比セハ。孰レカ優レル孰レカ劣
レル。曾西ノ才管仲ニ及ハスト云レ。管仲ニ比スルコトヲ欲
セサルハ。是ヲ以テノミ。噫。是王霸ノ辨ナリ。

戰國ノ時趙ノ武靈王胡服騎射以テ國人ニ教ヘ。及ヒ詐テ
自ラ使者トナリ。秦ニ入り秦ノ地形ト秦王ノ人トナリヲ
觀ルカ如キ。非常ノ豪傑ニテ中々只人ニアラス。然レバ修

身濟家ノ王夫ナキ故其臣下ノ圍ムトナリ食ヲ得ズ。崔兒
ヲ探テ是ヲ食ヒ。三月餘ニシテ沙丘宮ニ餓死ス。淺依シキ
事共ナリ。其禍源ヲ尋ヌルニ武靈王初ノ長子章ヲ以太子
トス。後吳廣ノ女孟姚ヲ得テ之ヲ愛レ。為ニ外ニ出テサル
一數歲ニシテ子何ヲ生ム。乃チ太子章ヲ廢シテ何ヲ立ツ。
其後吳孟姚死シ。何カ愛衰フ。且故太子ヲ憐ム。兩ナカラズ
ヲ王トセント欲猶豫シテ未タ決セズ。故ニ亂起リレトソ
是亦桓公君臣ノ笑ヲ所ナリ。又按スルニ兩ナカラズヲ王
トスルハ大ニ我上杉謙信ノ末路ニ似タリ。是皆英雄ノ失
策。已ムヲ得サル者ニシテ亦悲ムヘキノミ。

故家遺俗流風善政。

故家ハ註ニ云舊臣ノ家也。遺俗ハ殘リタル風俗ナリ。流風
ハ上ヨリ下々ヘ流レ下ル風ナリ。善政ハヨキ仕置也。三代
聖人ノ世ハ何レモ故家遺俗流風善政ノ四ツノ者ハ必ス
有ルヲナレ。凡殷ノ政ハ特ニ質朴ヲ尚ヒ。文飾ヲ事トセス。
且湯王以來大甲大戊祖乙盤庚武丁ノ如ク。賢聖ノ君多ク
出玉ヒタル故。別シテ四者盛ニシテ觀ルヘキナリ。抑國ノ
治安長久ナルハ地廣キニモアラス。民衆キニモ在ラス。惟
頼ミトスヘキ者ハ此四者ニシクハナシ。然レハ政ヲ為ス
者茲ニ心ヲ用ヒスレハ有ルヘカラス。是ヲ知ラスレテ妄

ニ祖宗ノ成法ヲ變シ。國家ノ美俗ヲ易ル者ハ國賊ト云ヘシ。今吾輩至賤ト雖苟モ國ノ為ニセンコトヲ思ハ、亦茲ニ心ヲ用フヘシ。我家先代ノ事ヲ考ヘ、又君家祖宗ノ業ヲ禁ヘ、次ハ大臣其他勲舊ノ家ノ傳記ヲ尋テ、古來ノ制度風俗等ニ至ル迄悉ク考究シテ、湮没ヲ著シ、晦昧ヲ顯シ、務メテ古ヲ存スル如ク心掛ヘシ。心ヲ用ルノ深ク、功ヲ積ムノ久レクレテ、遂ニ一大撰述ヲ成シ、適ク世ニ傳ヘ、故家遺俗、流風善政、益盛ニ益明ナラシメ、ハ是亦國ノ為ナリ。是學者最モ務ムヘキコトナリ。余常ニ茲ニ志アリ、而テ未タ及フコト能ハス。今此章ヲ讀テ、益奮發ス。願クハ徐ニ諸君ト之ヲ謀

ラン。

第十場 七月廿六日

第二章

孟施舍之所養勇也。

此章浩然ノ氣ヲ論ス。其論甚盛大雄偉也。北宮黝孟施舍ノ勇ノ如キハ固ヨリ言フニ足ラス。但孟施舍ノ勇ハ、武士戰場ニ向フ時ハ角コソ有リタキコト也。固テ其累ヲ言シ、無懼ノ二字是主ナリ。勇氣敵ヲ吞ムト云如ク、百萬ノ大敵、目ニ餘ルト雖、肩トモヒ又コト也。死ヲ知レハ必勇ト云ヘハ、打死ト覺悟サヘ定リタシハ、大敵猛勢モ畏ル、ニ足ルコトナ

レ然レ此勇ヲ養ヒテ大ニナサ、レハ。假令覺悟定リタ
レ。勇氣敵ヲ吞ム所ナシ。未タ孟施舍ノ勇ヲ語ルニ足ラ
ス。孟施舍ノ如キ者一人陣中ニアレハ。總軍ノ氣此カ為ニ
大ニ増盛シ。敗軍モ轉シテ勝軍トナル者也。此人一人國中
ニアレハ。國ノ氣是カ為ニ増盛シ。弱國モ轉シテ強國ト
ナル者ナリ。況ヤ此人ヲ舉テ將帥ノ任トナスニ救ヲヤ。強
將ノ下弱兵ヲキコ必セリ。士安ソ茲ニ志サ、ルベケニヤ。
至大至剛以直養而無害。則塞乎天地之間。

此一節最詳ニ説ムヘシ。至大トハ浩然ノ氣ノ形狀ナリ。推
恩足以保四海ト云モ即此氣ナリ。此氣ノ蓋ソ所。四海ノ廣

キ萬民ノ衆キト云共及ハサル所ナシ。豈大ナラスヤ。然レ
凡此氣ヲ養ハサル時ハ。一人ニ對シテモ怛怛トシテ容サ
ル如シ。況ヤ十數人ニ對スルヲヤ。況ヤ千萬人ヲヤ。蓋シ此
氣養テ是ヲ大ニスレハ。其大極リナシ。餒シテ是ヲ小ニス
レハ。其小亦極リナシ。浩然ハ大ノ至レル者ナリ。至剛トハ
浩然ノ氣ノ摸樣ナリ。富貴不能淫。貧賤不能移。威武不能屈
ト云即此氣ナリ。此氣ノ凝ル所。火ニモ燒ケス。水ニモ流レ
ス。忠臣義士ノ節操ヲ立ル。頭ハ刎テモ。腰ハ斬テモ。
毛。操ハ逆ニ變ヘス。高官厚祿ヲ與ヘテモ。美女淫声ヲ陳テ
テモ。節ハ遂ニ換ヘス。亦剛ナラスヤ。九金鍊剛ト雖烈火以

テ銘スヘシ。玉石堅ト雖鍊鑿以テ碎クヘシ。唯此氣獨リ然
 ラス。天地ニ通シ。古今ノ貫キ。形骸ノ外ニ於テ。獨リ存スル
 者剛ノ至ニ非スヤ。至大至剛ハ氣ノ形狀摸擬ニシテ。以直
 養而無害ハ。即チ持其志無暴其氣ノ義ニシテ。浩然ノ氣ノ
 養フノ道ナリ。其志ノ持ツト云ハ。吾カ聖賢ヲ學ハントス
 ルノ志ノ持詰テ。片時モ緩カセナクスルコト也。學問ノ大禁
 忌ハ作輟ナリ。或ハ作シ或ハ輟ルコトアリテハ。遂ニ成就ス
 ルコトナシ。故ニ片時モ此志ヲ緩カセナクスルヲ持其志ト
 云。余辛亥ノ歲初ヲ東山翁ノ見ル。翁漢字蘭學各日ノ半ヲ
 以テ休摩スヘキコトヲ教ヘ。因テ作輟スルコト是其大禁
 忌ナリト云ヘリ。是常言ト雖。余深ク研底ニ存シテ。今ニ至
 ルマテ象山ク憶フ毎ニ念ス。此言ヲ思フコト以テ。偶然此ト

コトニ疑以直養ト云モ同レ工夫ニテ。平日スル所悉ク直
 道ニ外ルコトナクシテ。是ヲ以テ此氣ヲ養育スルコトナリ。
 無暴其氣ト云ハ。即チ無害ト云ト同シ。害スルト云暴フト
 云ニ二様アリ。一ハ私欲ヲ肆ニシ。直道ヲ以テ志ヲ持スル
 コトヲ怠ル。時ハ自ラ省ミテ愧ル所アリ。大ニ氣ヲ暴ヒ害
 スル也。是即チ下節ノ所謂不耘苗者也。二ハ浩然ノ氣ノ至
 剛ハ。為ス所道義ニ合フヨリシテ。自ラ生スル者ナリ。然ル
 ニ道義ニ合フト合ヌクモ考ヘス。向見ズニ大ト剛トナ
 ヲシトスル時ハ。一時ハ我慢血氣ニテ狂暴粗豪ヲ以テ剛
 モ大モナスベケレシ。遂ニハ愈自ラ省ミテ愧ル所アリ。武

田信玄ノ終身論語ヲ讀ム。能ハサル如キ。是最モ氣ヲ暴
ニ害スルノ大ナル者ナリ。是下節ノ所謂握苗者也。寒乎天
地之間ト云ハ。其效驗ヲ云ナリ。浩然ノ氣ハ本是天地間ニ
充塞スル所ニシテ。人ノ得テ氣トスル所ナリ。故ニ人能ク
私心ヲ除ク時ハ。至大ニシテ天地ト同一体ニナルナリ。今
吾レ一言一行ノ細ヨリシテ。本諸身。微諸庶民。考諸三玉。而
不謬。建諸天地。而不悖。實諸鬼神。而無疑。百世以俟。聖人而不
惑。動而世為天下道。行而世為天下法。言而世為天下則。ト云
如クナレハ。天地古今ニ充塞スト云ヘシ。浩然ノ氣ハ古來
聖賢相傳テ。孟子ニ至リ發明スル。處學者ニ於テ最切實ナ

ル。故ニ特ニ是ヲ詳ニス。

第十一場 七月念九日

第三章

此章王霸ノ辨ヲ論スル。明ナリ。味フヘシ。世人或ハ謂ラ
ク。王ハ天子ノ事ニシテ。霸ハ諸侯ノ事ナリト。而レテ孟子
ノ論スル所ハ。然ルニアラス。故ニ七十里ニテモ王ナリ。百
里ニテモ王ナリ。是ヲ以テ推スニ。賤民ト雖。王アリ。霸アリ。
夫富高大賈金銀財帛ノカヲ有シ。思テ賣リ名ヲ要スル。為
ニシテ。窮民丐兒ヲ收養賑恤スルハ。霸ナリ。又身貧困ナリ。
ト雖。一簞ノ食。一瓢ノ飲。ヲモ分テ親戚故舊ト是ヲ共ニシ。

或ハ仰事俯畜ノ餘資ヲ以テ食之ヲ惠救ス。類ハ王ナリ。嗚呼世道ノ衰ル。天子諸侯ニ就テ覇者ヲ求ルニ絶テ無シテ僅カニアリ。何況王者ヲヤ。名教ノ敗ル。士農工賈ニ就テ覇者ヲ求ルニ又僅ニアリテ多クアラス。何況王者ヲヤ。哀夫。

第四章

此章兩ノ及是時ノ語ヲ下ス。朱註並ニ惟日不足之意ト云。最妙味フヘシ。今ヤ東墨西歐駿々來リ逼ル。官皆枉テ其意ニ適從ス。輿地圖ヲ披テ是ヲ檢スルニ蝦夷ノクレユニコタン既ニ魯人ノ城墾ヲ築ク。松前ノ箱館伊豆ノ下田已ニ

墨人ノ互市場トナル。肥前ノ長崎暗拂ノ來航頻々也。其他武藏ノ神奈川。志摩ノ鳥羽。攝津ノ難波等。夷人已ニ去ルト雖。腥羶ノ氣汗流シテ未ク去ラス。然ラハ則神州ノ其汗ヲ受クサル者幾許ソヤ。事已ニ亟ニ至ル。間暇又幾時ソヤ。幸ニ今數年ノ災ヲ紓フ。實ハ不治ノ病ヲ護ス。是時ニ乘シ惟日モ足ラストシテ。日夜刻苦勉厲。上ニ在テハ其政教ヲ修メ。士大夫ニ在テハ其學藝ヲ鍊リ。農工商賈ハ各其業ヲ勤メ。務メテ脯戸ヲ網終シ。下民ノ侮ヲ禦クヘシ。然ルニ今ハ然ラス。是時ニ乘シ惟日モ足ラス。日夜般樂怠敖スル。何事ソヤ。古今同慨ナル哉。

禍福無不自已求之者。

此語甚妙。禍福ノ二字皆示ニ從フ。凡示ニ從フ字ハ神祇祥
禎ノ類。皆天道鬼神ニカ、ル字ナリ。故ニ禍福ト云ハ。世俗
ニ所謂天罰ノ中ル神罰ヲ蒙ルト云ヒ。又神ノ惠ヲ受ル天
ノ福ヲ蒙ト云類ナリ。古今共ニ愚昧ノ人情ハ同シ事ニテ。
兇角天ヤ神ヤノ禍福ヲ降ス如ク思フ故ニ。孟子特ニ云ク。
禍福天ヨリ降ルニ非ス神ヨリ出ルニ非ス。已ヨリ求メサ
ル者ナシトナリ。此理ヲ知リテ初テ共ニ道ニ入ルヘシ。此
理ヲ知ラサル者ハ天地鬼神ニノミ諂ヒ諛ヒテ。已ノ行ハ
修メス。是ヲ福ヲ辨シテ禍ヲ求ムルト云。小人ノ行フ所皆

然リ。憐ムヘキノミ。

第五章

此章仁政ヲ論スルコト甚詳ナリ。大意天下ノ士商旅農民
皆我國ヲ蓋ヒ來ル如クスル事ナリ。五者ノ中尤要トスル
所ハ。又士ノ其朝ニ立ツテ願フ如クスルニ在リ。故ニ此
條ヲ以テ第一ニ置ク也。政ニ任スル者胸ニ手ヲ措テ思惟
スベシ。

第六章

此章不忍人ノ心ヨリ。遂ニ四端ノ論ニ及ブナリ。不忍人ハ
即惻隱ノ心ニシテ。最惡辭讓是非皆是ヨリ出ル処ナリ。嗚

乎人々此にナキハアラジ。而テ凡人ハ皆擴充ノ術ヲ知ラ
ス。以テ聖人ニ及ハサル所ナリ。孺子入井ノ譬。及ヒ梁惠王
上篇牽牛ノ説。事大ニ相類ス。宜ク良心發見ノ所ヲ知テ擴
充ヲ勤ムヘシ。擴充ノ二字是孟子人ヲ教ルノ良術也。

第七章

仁天之尊爵也。人之安宅也。

尊爵安宅ハ正ニ人役ト相及ス。何クカ尊爵ト云。人本心ヲ
存シ人道ニ於テ失フ所ナクレハ。假令一時ニ屈抑セラ
ルトモ。万世ニ發揚スヘシ。俗輩ニ凌侮ヒラル、凡。知道者
ニハ尊崇ヒラルヘシ。知道者ノ尊崇ハ萬世ニ發揚スルニ

是ル固ヨリ俗輩ノ凌侮一時ノ屈抑ノ比スヘキナラシヤ
故ニ是ヲ尊爵ト云。何クカ安宅ト云。凡人ノ居ル所。金城湯
池ト雖。彫牆畫堂ト雖。是ニ居ルニ徳ヲ以テセサレハ。衆怒
並起リ。群怨日ニ盛ニシテ。一日モ其居ヲ安スルコト能ハス。
且一時ノ機ニ乘シ。富貴尊榮ヲ得ルト雖。中心自ラ愧自ッ
愁安ンセサルノ甚キ。將タ何トカイワシ。苟クモ仁ニ於テ
得ルコトアラハ。貧富苦樂死生得喪。往クトシテ安ンシ。且樂
マサルコトナシ。若然ラサレハ。貧苦死喪。固ヨリ哀レムヘク
シテ。富樂生得。亦樂ムコト得ス。營々汲々人ノ彼トナルノ
ミ。故ニ世人ノ所謂尊爵ハ真ノ尊爵ニ非スシテ。安宅ハ真

ノ安宅ニ非ス。且、眞ノ尊爵安宅ハ、人々固有スル所、得レト欲スレハ即チ得。世人ノ尊爵安宅ノ求ノ難キカ如キニ非ス。何ヲ苦テ久ク人ノ役トナルベ。思ハザルノ甚キナリ。

第八章

舜ハ大聖人ナリ。其賤シクシテ農夫陶工、漢父ト混スルニ當テヤ、必ス取於人、以爲善モノハ、天下ノ至大至願、誠ニ一人智力ノ能及フ所ニ非ルヲ知レハナリ。與人爲善ニ至テハ、仁ノ至レル者ナリ。吾儕小人聖人ノ大德ニ及ツヘキニ非スト雖、既ニ志ヲ立テ聖人ヲ學フ、何ソ大舜ヲ畏ンシヤ。故ニ己ノ小智小能ヲ挾マス。濶然トシテ人ノ智能ヲ採用

シ。且、人ノ善心ヲ勸メ助ケ。共ニ道ニ適クヘシ。是大舜ノ道ナリ。今世智能ノ至是シキニ非ス。唯恨ル所ノ者ハ、己カ知能ヲ恃ム。人ノ智能ヲ採用セス。且、人ヲ誘ヒテ道ニ進ムル者、極テ少シ。甚シキ者ハ、良智良能互ニ相軋ルニ至ル。衰シムヘキノ甚キ者ナリ。吾儕宜ク深ク心ヲ茲ニ用フヘシ。

第九章

伯夷ノ清。柳下惠ノ和。各一偏ヲ得。故ニ變シテ隘トナリ。不恭トナル。若清ナルヘクシテ清。和ナルヘクシテ和ナル時ハ、孔子ノ可以仕則仕。可以止則止。可以久則久。可以速則速ト。何ソ異ナランヤ。而テ人各資質アリ。故ニ古人ノ學テ其

性ノ進キ時ヲ得ヘシ。余尤モ柳下惠ノ行ヲ愛ス。由々然興
 之倍トハ和ナリ。而不自失焉。ハ不流ナリ。和ニシテ已マサ
 レハ必流俗ニ同シテ汙世ニ合フニ至ル。故ニ不流ヲ以テ
 已ヲ持ス。其人ヲ待テ物ニ接スルハ甚寛厚ニシテ。自ラ惠
 スルハ甚嚴密ナル。是柳下惠ノ行ナリ。人能如此ナレハ。何
 程壞乱ノ世ニ處ルト雖。必能ク志ヲ協ヘ心ヲ同フシ。世道
 ヲ維持スルノ人ヲ得ルトリ。但シ五代ノ馮道ノ如キハ。五
 朝ハ姓ニ歷事シ。身常ニ大臣トナリ。敢テ國ニ殉スルノ節
 ナク。國ヲ存スルノ策ナキ者ニシテ。人或ハ認テ道廣シナ
 ト、云ニ至ル。是柳下惠ノ和ヲ學テ。其不流ヲ忘ル、ニ非

ス。斯ノ如キ時ニ至テハ。伯夷ノ清ニ非レハ。安ソ能ク義
 ヲ正シ。道ヲ明ニシテ。世道ヲ維持センヤ。故ニ余ハ則柳下
 惠ヲ主トシ。是ヲ輔スルニ伯夷ヲ以テセント欲ス。是余カ
 志ナリ。一ニソ朋友却テ伯夷ニ似タル者アリ。余ハ則又是
 ヲ輔クルニ柳下惠ヲ以テセント欲ス。是余ニ聖人ヲ學フ
 ノ術ニシテ。孟子ノ孔子ヲ學フ。恐クハ亦是ニ外ナラス。
 此篇首章王タルノ易キヲ云。管晏ヲ黜ル者ハ。意實ニ孔
 子ヲ學フニアルナリ。二章ハ上ヲ承テ不動心ヲ言フ。知
 言養氣ヲ以テ其工夫トス。遂ニ孔子ヲ學フノ意ニ落着
 ス。三章王覇ヲ辨シ。四章榮辱ヲ論ス。皆首章ノ餘意ヲ發

論語集注 卷之十一

明ス。五章詳ニ仁政ヲ論ス。首章行仁政ノ句ヲ實ニス。六章仁心ノ固有ヲ明ニシ。七章仁ヲ擇ムヲ論シ。並ニ仁政ノ根本トス。八章子路禹大舜ヲ舉テ。遙ニ第二章ノ末群賢聖ヲ列スルノ意ニ照應シ。九章伯夷柳下惠ヲ言テ。君子不由也ニ歸シ。孔子ヲ學フノ意ヲ重ス。管晏ノ黜ヘキハ復タ言フ待タス。是上篇ノ文脉也。

第十二場 八月三日

公孫丑下 首章

天時不如地利。地利不如人和。

此義明白。復タ論フ待タス。今試ニ是ヲ倒言セシ。夫人和ヲ

得テ初テ地利用フヘシ。天時用フヘシ。故ニ國家ノ務ヲ論スル時ハ。先ツ人和ヲ務ムヘシ。人和已ニ得ハ。城高フスヘシ。池深フスヘシ。兵革堅利ニスヘシ。米粟多クスヘシ。其戰ニ臨テハ。天時モ擇フヘシ。是ク一身ニ譬フルニ。胸中固ヨリ忠孝ノ念ヲ存スル。是人和ク如シ。忠孝ノ念アラハ。文學モ修ムヘシ。武藝モ講スヘシ。武器モ畜フヘシ。是天時地利ノ如シ。故ニ忠孝ノ念ナキ者ヲシテ。文武ヲ講修シ。武器ヲ畜ヘシメハ。却テ害トナリ。其身ヲ全スルヲ能ハサルノ基ナリ。是人和ヲ得スシテ。地利天時ヲ恃ムカ如シ。理ハ一也。一身一家ヨリ國天下ニ通シ。皆別理アルコトナシ。宜シク先

後緩急ノ在ル所ヲ察スヘシ。先ト云急ト云ハ忠孝ノ念ナリ。人和ナリ。後ト云緩ト云ハ文學武藝武器等ナリ。天時地利ナリ。

第二章

卿黨莫如齒

三尊ハ天下ニ通達シタルコトナレハ。是ヲ遠尊ト云。今菽中ノ風ノ觀察スルニ。爵ノ尊キヲ知テ徳ノ尊キヲ知ラス。徳ノ尊ヲ知テ齒ノ尊キヲ知ラス。憂フヘキノ甚キナリ。田舎ニハ稍質實ノ古風モ存シ齒ヲ尊フノ風アレバ。菽中ノ風ハ大抵才ニ伐リ。能ニ矜リ。老輩長者ヲ凌忽輕蔑スルコト甚レ。是人々ノ學フ所。功利ノ末ニ流レ。仁義ノ本ヲ務メサル

ヨリ起ルコトナリ。余嘗テ水府憲府ノ士人ト。好テ交ルニ其風頗ル齒ヲ尊フノ意ヲ存シ。大ニ菽中浮薄ノ風ト異ナル者アルヲ覺フ。余至愚タリト雖。誓テ古道ヲ身ニ行ハント欲ス。是等實ニ至要至急ノ事ナリ。何ソ徒ニ水府憲府ヲ羨ムコトフセンヤ。若夫徳ヲ尊ヒ爵ヲ尊フニ至テハ。今ノ風固ヨリ善至リ。美盡ストセズト雖。齒ヲ尊フノ念。誠心ニ發セハ。豈更ニ他道有ラレヤ。有所不君之臣

此事余千万國家ノ為ニ願望スル所ナリ。成湯桓公ノ後。漢ノ昭烈ノ諸葛亮ニ於ル。唐ノ肅宗ノ李泌ニ於ル。亦皆相似

タリ。故ニ善ク三分ノ大業ヲ興シ。中興ノ偉績ヲ成ス。彼
カ如シ。今ヤ國步艱難何ソ獨リ茲ニ及ハサルヤ。其地醜德
齊莫能相尚。亦何ソ怪マン。儒臣經筵ニ侍シ。此等ノ章ヲ講
スル果シテ何ノ説ヲカナス。宰執此等ノ講ヲ聞ク。又果シ
テ何ノ面ヲカナスヤ。

第三章

註尹氏曰。君子之辭受取予唯當於理而已。按スルニ是等ノ
處ニ於テ。君子小人ノ別ヲ知ルヘシ。君子ハ何事ニ臨ミテ
至理ニ合フカ合ハヌカト考テ。然ル後是ヲ行フ。小人ハ何
事ニ臨ミテモ利ニナルカナラヌカト考テ。然ル後是ヲ行

フ。故ニ君子トナルヲ難カラス。今日大小ノ事ニ拘ラス。理
ハ如何理ハ如何ト考テ是ヲ行フノモ。何ソ獨辭受取予ノ
ミナランヤ。

第四章

牛羊ノ喻甚好シ。牛羊ハ人家ニ畜フ所ニシテ。一日モ收ト
馬トナケレハ濟マサルハ人々知ル所ナリ。況ヤ民衆ニ至
テハ牛羊ノ比スヘキニ非ス。而ルニ窮民街ニ叫ビ。餓寒途
ニ充レヒ。却テ是ヲ知ラス。是ヲ顧ミス。是大ニ怪ムヘキニ
非スヤ。是他ナシ。民ヲ親ル。牛羊ニ如カス。民ヲ親ム。牛
羊ニ如カサルニ由ルナリ。唯氏ヲ收スル者。能ク牛羊ヲ收

スルノ心ヲシテセハ。不仁ノ讒ヲ免シ歟。若夫罪ヲ知テ改メサル者ハ。真ニ如何共スヘカラサルノ人ナリ。人ノ患ハ罪ヲ犯シテ罪ヲ知テサルニ在リ。是誠ニ憐ムヘシ。今他人アリテ其罪ヲ告ケ知ラシム。其人自ラ罪ヲ知ル。而ルニ猶且改メス。然レハ則又更ニ告クヘキ操ナシ。世間ヲ歴觀スルニ如此ノ人甚多シ。共ニ語ル時ハ忠孝仁義ノ美ナルヲモ知リ。不忠不孝不仁不義ノ惡ナルヲモ知リツレ也。其行ヲ省ミレハ。一ツトシテ忠孝仁義ニ似タルイナキ者アリ。是罪ヲ知テ改メサル者ニシテ。孔距心宣王ノ流ナリ。

第十三場 八月六日

第五章

錚靈丘而請士師。

靈丘ハ下邑ナリ。其大夫ハ今ノ代官ノ類ニシテ。而モ常ニ治所ニ居ル。故ニ都城ニ遠クシテ。數々得失ノ上言スルイテ得ス。故ニ士師ヲ請フ。士師ハ都城ノ官ナレハ。上言モ心ノ儘ナルヲ以テ也。漢ノ武帝元狩五年。初テ諫大夫ヲ置ク。是ヨリ以前ハ諫官ト云者ナキ故ニ。諸官皆上言スルトヲ得シ也。註ニ士師述王。得以諫刑罰之。不中者ト云。然レ臣士師ノ言フコトヲ得ル。恐クハ刑罰ヲ諫ムルニ止ラサルヘシ。

今既數月矣未可以言與

未ノ一字妙甚シ。唐ノ韓退之。爭臣論。宋ノ歐陽永叔。上范司諫書。皆此字ヨリ敷衍レ來ルナリ。蚩鼈士師ヲ請フノ初心。固ヨリ國ノ利弊得失ヲ極言セシカ為ナリ。其官ニ拜スルニ至テハ。且レク朝ニ拜レテタニ言ヘシ。然ルニ數月ニ至リテ曾テ一言ナキ者ハ。初テ官ヲ拜シ。未タ其職事ヲ通知スルヲ能ハス。言ヲ發スルニ暇アラサル歟。又ハ同僚先官ヲ憚ル所アリテ。未タ發セサルカ。又ハ事ノ小ナル者ハ多ク。レモ未タ言フニ足ラス。必其事ノ大ナル者ヲ待テ後言シト欲スルカ。大凡此三端ニ過キス。孟子深ク蚩鼈カ心中

ヲ推察シテ。未ノ字ク下メナリ。而其注意ハ時ヲ待テ言シト欲セハ言フヘキノ期アルコトナシ。事ノ大小ニ拘ラス。一日モ早ク言ヘシトノ事ナリ。言甚婉曲ニシテ。意實ニ緊切ナリ。抑今ノ要路ニ當ル者モ亦未可以言與。余韓歐二家ノ文ヲ併セテ必ク叩シト欲ス。

第六章

王驩ハ齊王ノ嬖臣ナリ。孟子ノ副使トナリ。朝暮必見ユ。是ヲ以テ孟子ノ德望貴重想フヘシ。是他ナシ。孟子ノ仕ル道ノ為ニシテ身ノ為ニ非ス。孟子齊王ニ求ル所ナクシテ。齊王孟子ニ求ル所アルニ由ルナリ。是等ノ處於テ聖賢ノ地

位ヲ知ルヘシ。而テ聖賢ヲ学フ者ノ期スル処也。茲ニ在ラ
スヤ。

第七章

此章ニ於テ葬ノ道ヲ知ルヘシ。君父ノ葬ハ臣子ノ宜シク
心ヲ盡スヘキ所ナリ。一事ノ粗畧アルヘカラス。然レ凡其
最モ重スル所ハ棺槨ニ在リ。棺槨ハ肌膚ヲシテ土ニ親近
セシメサル為ナレハナリ。其他觀美ノ為ニ靡麗ヲ盡シテ
後。心ニ快シトスルハ大ニ非ナリ。是葬ノ道ナリ。然ルニ後
世葬ノ道ヲ失ヒ。棺槨ノ中ヘ金銀珠玉珍器宝物ヲ入レテ
埋ムル故。王公貴人ノ陵墓ハ世隔リ時換レハ。必ス盜賊ノ

論語集注

卷之二十

廿七

發掘スルトナリ。每ノ始宣漢ノ先武枯骨朽骸野ニ暴露シ

收拾セサルニ至ル。實ニ慘ムヘシ。且陵墓ノ制高大ニ過キ。

民生ヲ役シ物カヲ屈スルヲ甚夥シキニ至ル。漢ノ張釋之

三年。劉向成帝永唐ノ虞世南九年。令狐通論宋ノ

蘇洵論仁宗等是ヲ論スルヲ甚詳ナリ。就テ見ルベシ。能ノ

皇初二年十月。首陽山ノ東ニ衣シ。壽陵ノナリ。俗人此義ヲ

知ラズ。君父ノ葬ヲ論スルニ至テ。少ク裁抑スル所アレハ

難クテ。不忠不孝刻薄ノ人トナスニ至ル故。二人其非ヲ知

ルト雖。敢テ是ヲ論スルヲ得ス。殊ニ知ラス葬道ノ心ヲ

盡スハ棺槨ニ在リ。其他ノ觀美ハ論スル所ニ非ス。孔子曰

論語集注

卷之二十

廿七

典與其易也寧戚トホコノ義ナリ。

第八章

子曾不得與人燕。子之不得受燕於子曾。

註云諸侯土地人民受之天子。傳之先君。私以與人則與者受者皆有罪也。ト此說極テ好シ。上天子ヨリ下士庶人ニ至ルマテ。土地人民田宅皆己カ私有ニ非ス。必ス受ル所アリ。然ルニ一芥一毫ニテモ。私ク以テ人ニ與ヘハ。天地君父安ク敢テ是ヲ怒ラサレンヤ。故ニ天子ヨリ士庶人ニ至ル迄。土地人民田宅ヲ守リテ。子孫ニ傳テ失墜セサルハ。忠孝兩全ノ道ナリ。抑下田箱館ヲ舉テ墨夷ニ與ヘクシユンコタレ

ヲ舉テ魯夷ニ與フル。吾其鮮ヲ知ラス。噫亦受之天子傳之先君者カ。抑幕府ノ私有カ。

第九章

周公管叔ノ畔クヲ知ラサルハ。兄弟ノ至情已ムヲ得サルノ過也。抑知テ好ム者ハ多クハ人ヲ疑フニ失ス。仁ヲ好ム者ハ多クハ人ヲ信スルニ失ス。兩ナカラ皆偏ナリ。然レ凡人ヲ信スル者ハ。其功ヲ成スコト。往々人ヲ疑フ者ニ勝ルヲアリ。是察セサルヘケレヤ。古今人ヲ信スルノ甚シキ者ハ。秦ノ苻堅ニ如クハナシ。苻堅暴容重ヲ信スルノ甚シクシテ。遂ニ淝水ノ大敗アリ。是ヨリ大ニ國威ヲ失ヒ。笑ヲ後

世ニ貽ス。人皆是ヲ咎ム。余獨リ謂ラク。符堅ノ起ル。王猛ヲ
 信スルノ深キニ由ル。王猛ヲ信スルノ心ハ。即チ慕容垂ヲ
 信スルノ心。豈ニアランヤ。慕容垂ヲ信セヌンハ。敗レサル
 如シト雖。又王猛ヲ信シテ興ル。能ハス。是ニ因テ之ヲ云
 ヘハ。其得失正ニ相償フニ足レリ。人ヲ疑フニ勝ル。固ヨ
 リ萬々ナリ。故ニ余寧ロ人ヲ信スルニ失スル。臣誓テ人ヲ
 疑フニ失スル。ナカラント欲ス。况ヤ骨肉至親ニ於テ
 フヤ。源賴朝ニ弟範賴義經ヲ信シテ。平氏ヲ滅シ。義仲ヲ誅
 ス。其是ヲ疑フヤ。天下遂ニ北條ノ有トナル。豈千古ノ龜鑑
 ニアラスヤ。

第十章

欲中國而授孟子室。養弟子以萬鍾。使諸大夫國人皆有所矜
 式。

是孟子ヲ待ツ所以ニ非ル。固ナリ。何トナレハ。是時天下
 方ニ有為ノ時ニ當レリ。而テ孟子ハ。乃チ有為ノ人ナリ。有
 為ノ時ニ當リテ。有為ノ人ヲ捨ツ。其レ何ヲ以テ政ヲナケ
 ンヤ。抑今時ヲ以テ。是ヲ言フニ。國ノ中ニ當リ大ニ養賢堂
 フ興レ。今ノ大學校ノ外。別ニ養賢堂ヲ起ス。外ニ天下ノ賢
 豪ノ情ニ尊テ師トシ。優スルニ厚祿ヲ以テシ。士大夫國人
 ノ秀俊ナル者ヲ慕リ。是ニ從ハシメ。ハ。人才勃興。日ヲ刻シ

テ待ツヘレ是余カ頼欲スル所ナリ。然レ臣愛ニ一難アリ。令スル所ニ從ハスシテ好ム所ニ從フハ。人情ノ常然リ。故ニ天下ノ賢豪ヲ得ルト雖。君相真ニ是ヲ尊奉シ。其言ヲ所ヲ信用スレニ非ンハ。士大夫國人誰カ敢テ之ヲ矜式センヤ。亦齊王ノ已ニ孟子ノ言。月ニス。又其去ヲ耻夫此已ムヲ得サルノ一策ヲナスニ同キノミ。是亦知ラサルヘカラス。然ラハ則如何。曰ク。述世采澤ノ鷹山公ノ紀平洲ヲ尊信スル如キ。是ニ近シトス。

第十一章

子絶長者乎。長者絶子乎。

行ヲ留メレト欲スル者。齋戒宿ヲ越。然ル後敢テ言フ。而テ孟子一言ノ應モナク。凡ニ隱テ卧ス。是俗論ヨリ云ハ。長者絶子ナリ。孟子ヨリ容然レ臣行ヲ留ル者。慮ル_ル子思ニ及ハス。是孟子ノ應セサル所以ナレハ。子絶長者ナリ。孟子ヨリ絶_ト世間ノ事。斯ノ如キ者甚多シ。大抵俗論ノ見ル所ハ。形ノ上ナリ。君子ノ論スル所ハ。心ナリ。譬ハ。今我巧言令色ヲ以テ人ニ親ント欲ス。人必我ヲ容レヌ。是戒仁鮮キヲ以テナリ。然レハ人我ヲ容レサルニ非ス。我人ヲシテ容レシメサルナリ。是等ヲ以テ其他ヲ推知スヘシ。抑余嘗テ深ク疑フ。今ノ世。臣子思ノ如キ者ナキカ。君繆公ノ如キ者ナキカ。

又君臣共ニナキ歟。又君臣共ニ有リテ未ク相遇ハザル歟。臣君ク絶ツカ君臣ク絶ツカ。是遂ニ知ルヘカラサルナリ。

第十場 八月九日

第十二章

此章ニ於テ仁人ノ心ク知ルヘシ。燕ノ樂殺カ所謂古之君子交絶不出惡聲。忠臣去國不潔其名ト云モ此義也。孟子平生齊王ク諫争敢戒スル者甚備レリ。而王曾テ是ク聽納セズ。故ニ孟子齊ク去ルナリ。常人クレテ是ニ處セシメハ必怒罵シテ齊王ノ非ク數ヘ自己ノ名ク銜セン。而テ孟子齊ク去ル事ク記スルヲ前後九五章一言ノ怨怒ノ氣ナク齊

孟子集注 卷之二十一 三十一

王ノ謗刺スルノ言ナレ。其和氣藹然拘スルニ餘アリ。且徒ニ言語ノ末然ルニ非ス。三宿晝ヲ出。濡滞ノ譏ヲ顧ヒス。真ニ國ク去リテ其名ク潔セスト云ヘシ。今世ノ君ニ事ルハ暫ク論セス。諸フ朋友ニ交ル所以ヲ論セン。朋友相交ルハ善道ヲ以テ忠告スルヲ固ナリ。而テ朋友中不章ニシテ狂悖ナル者アラハ。反復誨諭スヘシ。必己ムク得サルニ至テハ或ハ交ヲモ絶ツヘシ。而テ其間假令優柔不斷ニ似タレモ。敢テ是ヲ奴々急遽ニセス。宜ク三宿晝ヲ出ルノ意ヲルヘシ。況ヤ交既ニ絶ルニ至テ。惡聲ヲ出ス。アランヤ。今世朋友ニ交ル者。善道ヲ以テ忠告スル者少シ。其過惡ク戒諭ス

孟子集注 卷之二十一 三十一

ル者最少シ。若或ハ私念ニ因テ交ヲ絶ツニ至テハ。譬ハ悻々然見於其面去則窮日之力而後宿ト云如ク。且怒リ且罵リ。毫モ生平ノ交態ヲ存セス。甚シキハ仇敵ヲ以テ是ヲ視ルニ至ル者往々然リ。其薄情極レリ。少ク孟子ノ風ヲ學テ忠厚ノ途ニ向ハセタキ也。夫孟子ノ和氣ト。今人ノ薄情ト。其起ル所何事ソト尋ルニ。物ヲ愛スルノ心ト。己ヲ衛フノ心ト。其途ヲ異ニスルニ由ルナリ。然ラハ有志ノ士物ヲ愛スルヲ以テ心トシ。切ニ己ヲ衛フノ念ヲ禁遏スヘシ。

第十三章

彼一時此一時也。

君子ノ心而般方リ一般ハ己ヲ處スルナリ。其己ヲ處スルハ貧賤ノ極リ。艱難ノ甚キト云。凡そ是ニ處リ。一モ天ヲ怨ミ人ヲ尤ムル所ナシ。一般ハ世ヲ憂フルナリ。其世ヲ憂ルハ天下ヲ視ル。吾家ノ如ク。万民ヲ視ル。吾子ノ如ク。世亂レ民苦ムヲ視テハ。食ヲ味ヲ甘セス。寢テ席ヲ安ンセサルニ至ル。彼一時此一時也ト云ハ。此而般ナリ。然レ凡そ兩般實ハ一般ナリ。何トナレハ。己ニ在テ貧賤艱難心ニ關ル。己ナレ故ニ天下萬民ヲ視ル。吾家吾子ノ如キニ至ル。天下萬民ヲ視ル。吾家吾子ノ如シ。故ニ貧賤艱難心ニ關ル。己ナキニ至ル。若夫情ヲ好。善ヲ牽サレ。涎ヲ美利ニ流スノ

徒安ク天下萬民ヲ顧ルモノアラシキ。故ニ云ク兩般實ハ一般ナリ。

第十四章

孟子初テ王ニ見テヨリ。已ニ去志アリ。故ニ祿ヲ受ケス。是ヲ以テ古人苟モ祿ヲ受ケサルコトヲ知ルヘシ。韓信言アリ。乘人之車者。載人之患。衣人之衣者。懷人之憂。食人之食者。死人之事。故ニ仕テ祿ヲ受レハ。此身ヲ舉テ君ニ獻ス。君ノ為ニ用ニ供スルコトナカルヘケンヤ。是古人祿ヲ受ルノ苟モセナル所以ナリ。今世清平ノ深澤ト。祖先ノ餘恩トニ因リ。許多ノ俸祿ヲ賜ヒ。其初ヲ知ラス。其受ルノ苟モスヘカラサ

ルヲ知ル者少シ。此等ノ章ニ於テ。宜ク感悟スル所アルヘシ。

右下篇九十四章。朱子曰。自第二章以下。記孟子出處行實。為詳。今案スルニ第二章。孟子自テ處スル所ト。時君ニ望ム處見ルヘシ。第三章。自テ處スルナリ。四章。時君ニ望ムナリ。五章。六章。七章。並ニ自テ居ルナリ。八章。九章。間。梁惠王下篇ノ十章。十一章。加ヘ共ニ四章。叙事相承ケ。伐燕ノ始末甚ク備ル。亦時君ニ望ムナリ。以下五章。又叙事相承ケ。去齊ノ始末甚ク備ル。亦自テ處ルナリ。就中第十三章。盡心下篇ノ末章ト大意同シ。シテ文少々省クノミ。

本九

論語集注 卷之二

是孟子深慨ノ在所ニシテ。此篇記スル所ノ出處行實
ヲ結ブナリ。末章暗ニ第十二章不識王之不可以為湯武
則不明也ノ意ヲ照シ。孟子固ヨリ己ニ王ノ湯武タルヘ
カヲサルヲ知ルト雖。亦倖々然タル小人ノ行ヲ為スニ
忍ビスシテ。心ナラス齊ニ久カリシト也。是此篇ノ大條
理ナリ。但疑ヘキハ首章天時地利人和ノ論。他ノ章ニ於
テ魯ノ關係ナキヲ覺フ。或ハ錯簡アラシモ未タ知ベカ
ラス。

講孟別記卷之二上終

